

生誕地(台湾)を訪ねました

香川 伸夫

私も人並みに歳をとってきた。歳をとると、妙に昔のことを思いノスタルジックになることがありますか。することは少なく考えることが多くなっている？ 78 歳、人生の終末期とは言いたくないが近い歳である。

以前から「生誕地 台湾に行ってみたい」と考えていた。夜中に目が覚めた時など、戸籍に書いてある「台湾・・・桃園郡・・・」、「サトウキビ一本失敬して逃げた子」の「彼の地」のことを想うと目が冴えて来たことがあった。

今年 3 月、インターネットで「台北駐日経済文化代表処」を何気なく見ていたら「問い合わせ覧」が有ることに気付いたので、ダメモトで書き込んでみた。60 年前にとった戸籍抄本の写しを大事に持っていたので、そこにある地名番地を入れ「現在の地所を教えてください。父が教員で、学校の寄宿舎で生まれた様です」と書いた。

そうしたら数日後 回答が来ました。「ぴったり正確な位置までは分からなかったのですが・・・「亀山国民小学」があります。ここは、日本統治時代に「亀山公学校」だったところで、戦後に現在の亀山国民小学となりました。グーグルマップで「桃園市亀山国小」というキーワードで地図検索すれば、現在の学校の場所が出て来ます。」というものでした。吃驚しました。これほど詳しく教えて貰えるなんて・・・。

私は、直ぐにグーグルマップに飛びつきました。結果は「目から鱗」、検索した地点(学校)がはっきりと確認出来ました。更に、学校と付近の写真が 10 数枚もリンクされていました。

この想定外の発見は、私を「生誕地訪問の旅」へ駆り立てるのに十分でした。

「台湾に行く！」と心を決め、パスポートの申請手続きを進める一方、先の地所やグーグルマップを教えてくれた「台北駐日経済文化代表処」へお礼のメールを出したら、今度は「台湾観光協会東京事務所」からメールが届き、台湾の世新大学が、国際交流活動の一環で「日本語ボランティアガイド」をしており、お手伝い出来るかもしれないという親切なものでした。

益々意を強くして具体化しました。折よく、茨城空港から台北直行のチャーター便が週 2 回飛んでいたのです。躊躇うことなく出発便を予約しました、学校が夏休みになる前の 6 月 14 日に。

台湾に行くことを金沢の兄（4 歳上、日本生まれ）に知らせたら「俺は足が悪くて一緒に行けないが、俺の分も見に来てくれ、そうだ！親爺のアルバムに台湾の写真が無いか調べてみる。」との返事、後日、一枚の写真が送られて来た。この写真が貴重でした。運動会のもので、騎馬戦の格好をした子もいる集合写真でした。百人位が写っていて、父や兄がいるかも分からない写真でしたが、写真の下に「大溪国民学校体練大会記念 昭和十八年十月十日」とはっきり書かれていました。

この写真を見て初めて分かったのですが、父と家族は、亀山だけではなく大溪の方にも居たことになります。私は又、グーグルマップを開き、「大溪」という地名と学校名を頼りに調べました。数日かけて地図の隅々まで探したら出て来たのです、大溪国民小学が……。思いは急展開、二つの学校を訪ねることに決めました。

私は、自分が勝手に日にちを決めて突然訪問するのでは相手に失礼だと感じたので、「学校とその周りを見せて戴くだけで結構ですので、伺わせて戴きたく……」と、日本語と下手な英語で書いた手紙を両学校へ送りました。（出発の一か月前に亀山小、二週間前に大溪小） そうしたら、出発の前日に、後から出した大溪小から welcome の返事が届きました。万事予想外の好転、幸せな気分で行くことになりました。

6月14日茨城空港発、順調に台北に到着。この時期、台湾は雨期で観光客も少ないと思ったが結構混んでいた。私の様な一人旅は殆ど見かけなかった。 出発前に世新大学のボランティアガイドを頼もうとメールのやり取りをしましたが、結局、台北市外へ出るのは無理とのことで、学校訪問は旅行社の専門のガイドとタクシーをチャーターして行くことにしました。ガイドの蘇さんという人がとても親切な方で、更なる発見をすることになりました。

6月15日、朝九時にホテルを出発。その日は両学校とも卒業式で午前中は相手出来ないかも……と出発前に届いた手紙に書いてあったことを蘇さんに話したら、「そんなら時間が有るので 戸政事務所（市役所）へ行って見ましょう」と、いとも簡単に言って車を回してくれました。戸政事務所で私の持って来た戸籍抄本を渡して待っていると、間もなく、三通の戸籍簿が出て来ました。最初は亀山で昭和14年から、次は大溪で昭和15年から、三通目は中壠（ちゅうれき）で昭和19年から戦後までのものが出て来て、コピーを渡してくれました、約400円で。

何と言うことでしょう。台湾で生まれ5歳で終戦を迎えた私は、台湾のことを何一つ覚えていません。戸籍にある桃園は今の台北国際空港の傍だということだけで78年間生きて来たが、家族は台湾に約8年間、亀山をはじめ大溪、中壠と移動していたことなど全く知らなかった。突然、天から降って来た様な戸籍簿をしみじみ見ながら胸がジーンとして来ました。有難う蘇さん、有難う台湾、戸籍簿は宝物になりました。

感動はまだまだ続きます。お昼過ぎ、大漢溪という川の傍にある大溪国民小学に着きました。学校では私の到着を待っていました。直ぐに展示室とでも言うのでしょうか創立以来の写真や書籍を並べてある部屋へ案内され、昭和十八年の教師が並んでいる写真を指して「ここにあなたのお父さんが写っています」ここにもありますと昭和十九年のものも見せて戴きました。更に驚いたのは、昭和十八年の6年生の「学籍簿」なる書類の綴りの中から、父が書いた評価欄の一箇所を見せてくれ「お父さんの直筆ですよ」と言われた時は感動で涙が出ました。

こんな、七十数年前の、世界大戦中の、日本統治時代の資料が整然と残っているなんて夢にも考え無かったことが、今、眼前にある現実、ただただ驚愕でした。

大溪から小一時間程離れた所に、亀山国民小学がありました。今年創立 100 周年を迎える伝統校（先の大溪小は 120 周年）です。ここでも先生方が待っていて下さいました。最初に案内された所は やはり展示室で、80 周年・90 周年記念誌を開いて、ここにあなたのお父さんの写真がありますと見せて下さいました。池の周りに先生方が並んでいる写真で、写っている人の名前がカバー紙に載っているのですでした。

また、「この池は今もありますから行きましょう」と校庭に案内され、池とその横に立つ「楠木（クスノキ）」と、更に、その奥に私が生れた寄宿舎の跡地を教えてくださいました。校長先生が大きな楠木を指さし、「あなたはここで生まれたのです。この楠木は、あなたのお父さんのこともあなたのことも知っている木です。」と言われました。…何故こんなに優しく私を迎えてくれるのか、台湾の方達の親切に涙が止まりませんでした。

両校とも、一人の日本人の為に、古い資料から調べ、最大限のおもてなしをしてくださいました。そして写真が載っている 20 年前の創立記念誌（大溪小は 100 周年、亀山小は 80 周年）を記念にくださいました。

私の旅は行き帰りを含めて 5 日間でした。その中のたった一日で、人生の何十年分かを噛みしめた様な気持ちです。他にももっともっと書きたいことが沢山あるのですが紙面の関係で省略せざるを得ません。しかし、どうしても付け加えたいことがあります。それは、世新大学のボランティアガイドです。台北市外は行けないと言われたガイドのことですが、学校訪問の感激が覚めないままの次の日に対応してくれたのです。日本文学を専攻している三年生の女性二人でした。私は、二二八事件のことが分かる「二二八国家記念館」と「龍山寺」へガイドして貰いました。二人とも日本語はほぼ完璧で、卒業後は交換留学生になって筑波大学へ行くのが目標だと話していました。とてもしっかりした学生でした。

出発前は、漠然とした想いで、どんな町で、どんな自然に囲まれていたのだろうか、「サトウキビ一本失敬したら見つかって逃げ回った」記憶の製糖工場はあるのだろうか…の程度のことが分かれば良いと思っていた一人旅でしたが、こんな展開になるとは…本当に幸せな旅でした。神様に感謝です。

この旅を通じて感じることは、台湾の人たちは、昔のことを大事にしています。日本統治時代に色々恨み辛みも有っただろうけど、根底では心が繋がっていたからこそ今日がある様な気がします。特に、学校の創立記念誌の中に、明治・大正・昭和に亘る日本の教育の心が伝わっている気がしました。私の父も、どの程度か分からないけど、少なからず貢献したのかなと思います。

本当に良い旅でした。帰ってから直ぐに、金沢の兄の所と父母の眠るお墓へ、報告に行って参りました。